

第十七回岡本太郎現代芸術賞

【主旨】

時代を創造する者は誰か！

1954年、岡本太郎 43歳のときに出版された『今日の芸術』。

この本には、「時代を創造する者は誰か」というサブタイトルがつけられていました。

1996年、岡本太郎没、享年 84歳。その直後、岡本太郎記念現代芸術大賞(2006年岡本太郎現代芸術賞に改称)

通称「TARO賞」が創設されました。彼の遺志を継ぎ、まさに「時代を創造する者は誰か」を問うための賞。

今年は第17回をむかえます。

「時代を創造する者は誰か」—この半世紀前の太郎の真摯な問いかけを胸に刻んで、創作活動に邁進する方々の、

幅広い応募を呼びかけたいと思います。応募規定に沿う作品であれば、その形状、技法等はまったく自由。

美術のジャンル意識を超え、審査員を驚かす「ベラボーナ」(太郎がよく使った言葉です) 作品の応募を期待しています。

応募総数 780名 入選 16名 受賞 6名

岡本太郎賞 キュンチョメ 『まっかにながれる』



素材：米 1 トン、石膏、立ち入り禁止テープ、映像 (2013&2014)

あの日、日本は確かに変わった。

年をまたぐたびにそんな気は薄れていくけど、

あの場所は未だに入る事も出来ない。

2012/12/31-2013/1/1 ここには山ほどのゴミ袋があった。まるで日本の裏側みたいだった。

2013/12/31-2014/1/1 この場所の除夜の鐘は三年鳴っていない。もうしばらく鳴らないかもしれない。

なにかに遠慮しつづけるのなんて、もうゴメンなんだ



会場に入るとまず張り巡らされた「DO NOT ENTER」「立入禁止」のテープが見える。テープの手前には「立入禁止のその先へ、どうぞお入り下さい」と書かれた米袋が置かれている。勿論、入るか入らないかは各々の判断に任せられる。しかし、中に入らなければ奥で上映されている映像をみることはできない。立入禁止のテープをくぐる。



床には一面、分厚く米が敷かれている。
総重量は約1トン。
円錐形の山は赤く染まった米で出来ている。

山の頂上からは真っ赤な手が突き出していて、
この手が、引きちぎった「DO NOT ENTER」の
テープを握っている。

鑑賞者は米を踏みながら奥へ進む。

2012/12/31-2013/1/1 ここには山ほどのゴミ袋があった。まるで日本の裏側みたいだった。

「NEW JAPAN PARADISE」(2013) 映像 04:04



2013/12/31-2014/1/1 この場所の除夜の鐘は三年鳴っていない。もうしばらく鳴らないかもしれない。

「立入禁止区域に除夜の鐘を鳴らしに行く」(2014) 映像 07:47

